

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1172700716		
法人名	狭山不動産株式会社		
事業所名	グループホーム見晴らしの家		
所在地	埼玉県狭山市入間川1730-1		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成27年2月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

散歩・買物などよく外出します。外気の中で季節を感じて頂けるよう、身近な所へ短時間でも出かけていくことを大切にしています。お食事については、開設以来、利用者様と共に買物に行き食材を得て献立を決めています。自己調達のため、おひとりおひとりの状態変化に対応した食事形態の調整もやすく、行事食を多くして、外出と同様に、季節感や生活の彩を感じていた抱くことを大切にしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・重度化の進行が見られる中、社交ダンスのボランティアや教会からクリスマスイベントに来所いただくなど、外部とのふれあいが途切れないよう支援がなされている。また、利用者の生活ぶりや事業所の取り組みを取り入れて制作したDVDを市の催し「アライフ狭山」に出展するなど、地域や行政との連携・協力にも努められている。  
 ・ご家族のアンケートでも、「私達家族に対しても日常生活など詳しく話していただきますので、ホームでの生活がよくわかり安心しています」、「食事は食堂と厨房が隣接しているのと職員が共に食事をするため、調理したての温かいものが提供されるので満足している」などのコメントが寄せられ、心のこもったサービスに高い評価が得られている。  
 ・目標達成計画の達成状況については、災害発生時の地域との協力体制作りに取り組み、運営推進会議の参加者に避難訓練を見ていただき、現状を理解し、意見をいただいたこと、また、利用者が浴衣を着て夏祭りに出かけた姿を写真に撮り、家族に伝えるなど外出支援のアピールに努められたことから、目標が達成されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり・のんびり・一緒に・楽しく」の理念のもと地元で溶け込んだ生活を目指している。	理念の実践に向け、職員はサービスの向上を目指し、資格取得や外部研修への参加など、積極的に取り組まれている。また、利用者と一緒に出かけたりするなど、楽しく日常生活を送っていただけるよう支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お茶やお菓子は近くの店へ入居者と共に買いに行き、近隣の農家の方に季節の野菜を頂いたりしている。	自治会を通して、地域の防災訓練やまつりに参加するなど、地域と積極的なつきあいが行われている。また、社交ダンスのボランティアや利用者が通う教会の牧師さんの訪問など、新しい交流への取り組みにも努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に中学生の体験学習や福祉ボランティアの受け入れをしている。特に今年度はしのイベントに参加して、認知症の理解を深める活動に携わることができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	至近にあるテーマとしての実状報告や取組の様子を伝える機会にしている。	知見者や市職員を中心に、事業所の取り組みへのアドバイスやサービス事業者連絡協議会の活動報告のほか、事業所からも様々な行事の報告などが議題となり開催されている。	運営推進会議の開催回数を確保していくため、家族の参加が得られるように、食事会やクリスマス会などのイベントと同時に開催する取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者は運営推進会議の委員になり、定期的に事業所の状況を知ってくれている。	市の担当者には、運営推進会議にも参加をいただき情報を得たり、担当者への相談・報告は日常的に行われている。また、市主催の行事や、サービス事業者連絡協議会に参加し運営や活動に尽力されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」について外部の研修に参加したり、その報告をもとにホーム内で勉強会をして、正しい理解を深める努力をしている。玄関施錠は防犯上実施しているが、入居者の希望に沿ってともに玄関の出入りが出来ている。	事業所では、拘束に頼らないための環境作りを目指し、「介護には拘束する理由はない」との発想で取り組まれている。職員もお互いの言葉使いなどに敏感に反応し、確認しながらケアに努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加して理解に努めている。入浴や更衣の際は体の変化の有無も確認して、虐待防止や早期発見の機会になっていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で制度に関する知識を得ている。入居者には成年後見制度を利用されている方もあり、職員は身近なものとして理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、不安や疑問について繰り返し説明し、理解を得るために時間をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付に「要望箱」を設置しているほか、交流会の際に時間を設けている。	利用者とは日常の会話の中で、家族からは、例えば通院時や車椅子の利用者の送迎時に、ケアプランの内容に関する事など、家族からの意見・要望は聴きとられ、サービスの向上につなげられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングの中で意見を聞く事が基本であるが、いつでも必要に応じて時間を設けて話を聞く姿勢であることをアピールしている。	管理者から職員に「どう思う」、「どうしたら良い」と問いかけ、「遠慮して話さない」がないように努められている。職員同士でも、料理やケアについて気づいたことなど、話し合いが行われ、事業所の運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所と母体の連携を密にするために本社総務課長が頻りに訪れ、職員の勤務状況を至近に知ったうえで給与・労働時間を整備している。総務課を通して代表者へももれなく情報が伝わっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が向上心を持って働けるよう外部研修受講の機会を大切にしている。園内では勉強会として研修の内容を多くの職員に伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の協議会への加入や運営推進会議の開催出席により、同業者との交流も多くあり、地域に根差したサービスの提供が可能になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が抱えている不安は会話や言葉だけでなく行動に様々な形で表れていることを感じ取り、見守りや観察を大切にして、説明や説得と取れるような言葉や会話は避けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時には、ホームの説明と共に家族の話から疑問や要望を汲み取るよう、ゆっくり時間をかけてお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後も継続する医療機関受診・美容院や集会参加の外出付添などの支援についても考えて話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り・掃除洗濯の家事全般には共に作業し、体調不良やADL低下で作業不能な方については元気な方が助ける姿勢をもとにして共同生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない支援を継続していただくように連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問客が過ごしやすい雰囲気・環境であるよう対応し、その関係性の情報を職員間で共有している。	勤めていた職場の後輩が訪ねて来られるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援が行われている。遠い親戚が大勢で来られ、食事や墓参りに出かけるなど、様々な交流への協力が図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂に集まる時に他の方の居室に声掛けして頂いたり、テーブル席が揃ってから食事を開始したりして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の支援とは言えないが、地元であるのでご家族と会う機会は多く、関係性は続いている。入院先や入所先に出かけた際は面会してくることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発した言葉を大切にアセスメントしている。意思表示の難しい方については、その時々表情や、家族・職員からの情報を頼りに「ご本人なら？」との立場で検討する。	入居時の状態と、その後の利用者の変化を把握し、その中から新しい思いや意向の把握につなげられている。また、無理強いせず、利用者の意志を尊重し、職員側の一方的な思い込みに陥らないよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族のお話や利用サービスからの情報により経過を把握している。アセスメントシートの記入を家族にお願いして生活史の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	急激に変化する健康状態やADL・うれしいことなどについての情報交換を大切にシフト間の申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問診療を利用されている方には、家族と医師とが話す機会をつくり、ご本人の状況を正しく理解出来る様な情報共有の機会を大切にしている。	利用者が「一番望まれていること」をポイントに、具体的な目標や細かな支援内容が記載された介護計画が作成されている。家族とは支援経過をもとに、こまめに話し合うことで、ケアプランの理解と同意形成が図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が現実の介護に即したものであるよう意識して記入するため、ケアプラン第2表はケース記録と共に確認できるように提示し、個別の記録以外の情報共有には連絡帳を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関受診の際の付添や送迎など、家族の時々希望に沿って援助出来る様に、職員配置を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお茶屋さんへの買物は、散歩の目的地としての役割やおやつ購入という生活の中の役割を担うことにもなっている。中学校の行事見学は、季節の節目として生活に活気をもたらしてくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所では月に2回の訪問診療を受けている方もあるが、個人個人の入居前からの通院受診を継続している方もおられる。本人・家族が医療機関を選び、適切な医療を受けている。	緊急対応が多くなり、かかりつけ医への受診にも職員が同行し、病院との連携を図るよう努められている。医師からの指示は、受診記録に記載され、ミーティングや申し送りで確認し、職員への周知が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師の配置はなく、訪問看護の利用もないが、受診時に家族や医師に正しい情報提供ができるよう、受診記録を活用したり、受診に同行したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は円滑に治療が受けられるように情報提供し、退院時には職員もカンファレンスに参加して生活上の指導等を受けるなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時までの間に、重度化や終末期の際の事業所の出来る事・出来ない事をお話している。消防署の救急隊からも日常の準備の記録について指導があったりして、地域ともより良い新しい協力関係を再構築しようとしている。	重度化が進行し、利用者・家族は何を希望し、どんな医療を望まれるのかの確認が行われている。緊急時に備えて、消防署とも必要な記録の内容や記載様式について話し合うなど、連携を図る取り組みがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には救命救急の講習を受講する機会を作っている。また、研修や勉強会で知識を得て事業所として全職員が習得出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導下で年2回の消防避難訓練を実施している。昼夜の違う設定で何回も実地訓練をしている。自治会との協力体制を作る為に、運営推進会議をとおして意見をいただいている。	運営推進会議に合わせて避難訓練を実施し、参加者からの意見や、消防署のアドバイスを受けながら、課題の改善に取り組まれている。避難経路や避難方法の確認、利用者も参加しての水消火器による消火訓練などが行われている。	災害発生時の地域住民の協力体制を確保することが大切と想定されていることから、日頃の合同訓練の実施を通して、AEDの使い方や消火訓練の実践など、住民の方が参加しやすい内容での取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時の声掛けには特に注意をしている。共同生活の中での個人個人の違いを意識した声掛けをしている。	慣れ合いによるマンリ化しないよう気を配り、一人ひとりを尊重した対応に心がけられている。例えば、着るものを選択する場合でも、職員が勝手に決めるのではなく、「これなんかどうですか」と提案し、自己決定ができるよう利用者の意志が大切にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人に希望を伺っている。意思の表出が難しい方には、二者択一で選ぶ機会を作りご本人が決定することを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のきまりや都合は特別にない。特別の行事があって時間制限がある以外に、個人のペースを尊重した過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身から習慣的にメイクする方はいないので、「今日は詩吟だから」「お出かけするから」と理由をつけてメイクをお勧めしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に要望がなくなっているので、行事に関連付けて気分が変わるような食事を心掛けている。少なくなったが、出来る方には食事準備や洗い物などもしていただいている。	ユニットごとに献立を替え、利用者に合わせた食事の提供方法の工夫がなされ、時間を気にせず、利用者のペースでゆっくり食べていただいている。一品ごとに小鉢に入れて並べられ、目で楽しむことにもこだわった食事支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は毎日記録して水分不足が続くことがないように管理している。飲み物の種類を多く用意して希望に沿った飲み物が提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた用品を使ったり、複数職員が対応して口腔内の清潔維持は徹底してケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況の把握は出来ているが、体調変化ですぐに変わることも多い。トイレでの排泄習慣を継続する支援を続けている。	「認知症といえども、不快は感じる」との考えから、トイレでの排泄を基本に支援が行われている。病院から退院されたばかりの利用者にも、立位の保持を確認し、オムツからリハビリパンツ、トイレ誘導に変えるなど、自立に向けた取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や掃除で運動不足を予防し、食事内容を検討したり、水分接種量をきろくして、下剤を頼らない排便があるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある場合は、声掛けのタイミングや職員を替えて気分新たに入浴をお勧めしている。入浴剤を替える・タオルで遊ぶ・歌を唄うなど対応の工夫もしている。	職員が複数で対応するケースもあり、全員が湯船に浸かれるよう支援がなされている。入居間もない利用者の慣れない浴室での安全管理や、冬場のヒートショック対策にも気を配り、安心して入浴できるよう取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は其々の状況に合わせて自由に休息して頂いている。意思表示が難しい方には体調や様子観察によって休息をお勧めしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は変化が多い為、フロア長が中心になって管理表を基に薬の管理をしている。変更の詳細は連絡ノートに記入して薬の理解を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADL低下・重度化により家事作業をする方はいないが、散歩などで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩や買い物の外出だけでなく、遠足や初詣など季節の行事に合わせて、少し遠出の外出も計画している。	近くのお宮に全員で初詣をしたり、食材の買い出しを手伝っていただくなど、利用者が外に出る機会を多く設け、季節の移り変わりも感じていただいている。地域の夏祭りには利用者が浴衣を着て出かけ、その様子は写真に収められ、家族にも伝えられている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時にホームの財布を預かって頂いたり、小口金をご自分で持って買物するなど、おかねを使う場面があるように外出支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との連絡は自由に事務所で電話を使って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気により室温の変化が大きいため、採光の強さはエアコンやカーテンで調整している。エアコンは直接に風を感じない様に廊下などからの空気の流れて温度調節している。	お雛様飾りを利用者と職員が一緒に行うなど、ゆったりとしたスペースが確保され、利用者の編み物の作品や航空ショーの写真などが飾られ、共用空間内での利用者それぞれの居場所の確保もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にベンチを置いたり、テレビ前の席はソファや椅子で個々の方の身体機能に応じて配置に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	体調変化やADL低下に対応して家具の配置かえや模様替えを定期的に行っている。	利用者・家族の思いが込められた家具、鏡台などが、安全に配慮しながら設置された日当たりの良い居室で、編み物を楽しむ利用者の姿が見られ、思い思いに自由な生活を送られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり以外の捉まれるものを家具の配置により確保して、移動時の安全を図っている。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名:グループホーム見晴らしの家

作成日:平成 27年 5月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域住民の協力体制確保のための具体策が足りない。	災害発生時の地域住民の協力体制を確保するために、地域の方と共に活動する機会を持つ。	①救急救命講習をホームで開催し、AED訓練に近隣の方をお誘いする。 ②総合防災訓練に自治会員として参加する。	8ヶ月
2	4	運営推進会議メンバー確保において、家族や住民が参加しやすい仕組みを考える必要がある。	運営推進会議の開催日を行事の日と併せ、計画的に日程調整して家族の参加を得やすい仕組みを構築する。	①交流会や敬老会等イベントに家族参加を呼びかけ、運営推進会議も併せて開催する。 ②項目35と合わせて、近隣に参加を呼びかけて防災訓練や認知症サポーター教室開催する。 運営推進会議に協力を要請する。	8ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。